

地域研究集会

第9回北海道水産海洋研究集会

ホタテガイ増養殖の現状と課題ー北の海の変化に対応していくためにー

共 催：北海道立総合研究機構水産研究本部，東京農業大学

日 時：2025年12月6日（土） 9：15～11：50（開場9：00，閉場12：00）

場 所：北海道立道民活動センター（かでの2・7）710会議室
（札幌市中央区北2条西7丁目）

コンビナー：板谷和彦・三好晃治（道中央水試），
千葉 晋（東京農大生物産業），夏池真史（函館水試），
金森 誠（道総研水産研究本部）

参加申込 URL：会場定員に達したため申込受付終了しました。ありがとうございました。
申し訳ございませんが、当日の飛び込み参加はご遠慮下さい。

申込期限：11月30日

問い合わせ先：natsuike-masafumi@hro.or.jp

次 第

挨拶	伊藤進一（一般社団法人水産海洋学会長）	9：15～9：20
趣旨説明	千葉 晋（東京農大生物産業）	9：20～9：25
話 題	座 長：三好晃治（道中央水試）	
1. オホーツク海の現状と取組状況	山崎千登勢（網走水試）	9：25～9：45
2. 日本海の現状と取組状況	酒井和哉（道中央水試）	9：45～10：05
3. 噴火湾の現状と取組状況	夏池真史（函館水試）	10：05～10：25
	一休 憩ー	10：25～10：35
話題続き	座 長：金森 誠（道総研水産研究本部）	
4. 陸奥湾の現状と取組状況	小谷健二（青森水技セ）	10：35～10：55
5. 岩手県におけるホタテ養殖の現状と課題解決に向けた取組	川島拓也（岩手水技セ）	10：55～11：15
総合討論	座 長：板谷和彦（道中央水試）	11：15～11：50

開催趣旨：ホタテガイ生産は地まきによる増殖と垂下式養殖の大きく2種類があり，生産体系が確立されてから半世紀が経過した。ホタテガイ増養殖は，自然環境中の餌によって貝を肥育させる点や養殖海域における天然採苗が可能な点から環境・経済面で持続性の高い生産手法である。そのため，生産体系が確立されるとともに急速に生産規模が拡大して，東北・北海道の地域特産種でありながら，国内における最重要魚種の一つとなっている。一方で，自然環境への依存度が強い生産手法であるため，海洋環境に起因する生産上の問題がたびたび生じている。とりわけ近年では，気候変動などの影響による生産の不安定化が各海域で発生している。そこで本会では，ホタテガイ養殖海域ごとの現状・課題およびそれらへの研究状況を共有した上で，変動する地球環境に応じて生産を持続させるための課題を議論し，今後の研究の方向性を展望することを目的とする。